



建築文化賞

景観に配慮した建築物

自然・地域文化と共生する学び舎

おいかわ 大多喜町立老川小学校

建築主：大多喜町

設計：(株)榎本建築設計事務所

施工：山本建設株式会社

所在地：夷隅郡大多喜町小田代524-1



多目的ホールとクラスター棟

養老溪谷の豊かな自然に恵まれた地域に建設された大多喜町立老川小学校は、分校の統合を行っても現在の児童数が72名という小さな小学校であるが、公民館のような地域の拠点としても位置付けられた建物である。

老川小学校を訪れて、まず目に飛び込んでくるのは、ひとつひとつの教室の「家」のようなスケールだ。基本的な一つのクラスターは、二つの普通教室とワークルーム、畳コーナーとトイレからなり、一クラスあたりの人数の増減を考慮して少人数クラスでも不都合のないような木目細かなこの地域の状況への配慮が感じられる。小さなボリュームに分割された教室、図書室、多目的ホールなどの建築に取り囲まれ小さな集落のようにも見える中庭は、屋外劇場としてもデザインされており、積極的に児童の生活に関わるように計画されている。地元産の杉材を使用し、地域の施設としても開放的に計画された多目的ホールとともに、学校と地域の交流のスペースに広がりを持たせている。

全体に複雑な構成であるが、それが人間の行為と密接に結びついた豊かな空間として成立しており、その複雑な構成を破綻なくまとめあげているところに、設計者の熱意と力量を感じる。

この地域と密着した小学校のあり方はプログラムの点から多めに評価されるべきであるし、多様な構成の中に小



ふれあいコートの屋外劇場

教室の木組み

さな社会を内包した老川小学校は建築としてそのプログラムにさらなる可能性を与えている。少子化、高齢化、過疎化に悩む地域における公共施設のあり方に一石を投じた建築といえるのではないだろうか。(篠原聡子)

